

# 子どもたちが主役です！ 第12回「東海村子ども芸術祭」

村内の各小学校の児童による書道・絵画・抹茶茶碗の作品を展示するほか、ダンスや合唱などのステージ発表を行います。子どもたちの素晴らしい作品と発表を、ぜひご覧ください。

場所▼東海文化センター

入場料▼無料

【問い合わせ】東海文化センター  
(☎282-8511)



▲詳細はこちら

## ■書道・絵画・抹茶茶碗展示

12月7日(土)午後1時～5時、12月8日(日)午前9時～午後5時

書道は各小学校選定作品(1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆)のほか、「東海村エンジョイサマースクール2024」で制作した書道の選定作品および抹茶茶碗を展示します。絵画は各小学校選定作品(1～6年生)を展示します。

みんな来てね〜♪



## ■ステージ発表

12月8日(日)午後0時50分～4時30分

ジャズダンス連盟、モダンダンス連盟、フラダンス連盟、よさこいソーラン連盟、東海村少年少女合唱団、東海太鼓保存会が出演します。

## ■体験コーナー

12月8日(日)午前10時～午後3時

お子さんが楽しめるワークショップなどを実施します。事前申し込みは不要(数に限りあり)ですので、ぜひご参加ください。

## ふるさと歴訪 〜自然を探して〜 手のひらサイズのカニがいる

茨城県環境アドバイザー

川島 省二

東海村を流れる新川は、河口からわずか7キロメートルほどの単独河川でありながら、下流には淡水と海水が混じり合った汽水域を好む魚が多く生息し、春にはアユが、秋にはサケも遡上する県内有数の生物多様な水辺空間が広がっています。

そこに、ひっそりと身を隠しながら「手のひらサイズのカニ」が生息していることを皆さんは知っていますか。十脚目・カニ下目・イワガニ科に分類される種、その名は「モクスガニ」といわれています。

成熟すると甲幅は約10センチにもなる、川で見られるカニの中では極めて大型の甲殻類です。鉗つまみの部分には、こげ茶色の毛がまるで「藻のくず」のようにフサフサと生えていることが名前の由来といわれています。

当種はカニの仲間として他に類をみない生態を有しています。産卵は海で行われ、孵化ふかしたゾエア幼生は海で育ちます。遊泳機能をつけたメガロパ幼生へと変態した後、満潮時に川に入って手のひらサイズまで



【モクスガニ】

成長し、産卵期にはまた海に戻ります。新川は上流にサワガニが、汽水域にクロベンケイガニが、海に入るとイソガニなどが見られますが、完全なる海水でも淡水でも生きられるのがモクスガニなのです。他の種と比較すると非常に強力な「浸透圧調節能力」を有しており、川で育った親ガニが産卵のため海に降下していくにつれて細胞浸透圧を高めていくことが明らかにされています。川に入った後の成体寿命は4年程度とされ、石の下や草の陰、泥の中などにひっそりと身を隠すことに優れ、新川の橋の上から川をのぞき込んでも確認することはまず不可能です。

世界的に有名な「上海蟹シウハイガニ」(チュウゴクモクスガニ)の同属異種であることから、カニみそが大変おいしいのですが、容易に採取できるとはならず、家庭の食卓にあがることは滅多になく、久慈川の漁師さんが仕掛けた網にたまたま入ったものをお裾分けいただけないと食べられないようです。